

2024年度 自己点検・評価報告書

実施日：2025年5月10日

学校名：辻調理師専門学校 東京

1. 学校の教育目標

調理及び製菓に関する技術の習得、教養の向上、人格の陶冶を旨とし、食文化の創造及び食業界の発展に貢献しうる人材を育成することを教育目標とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

開校初年度にあたる当年度は、1年制学科においては入学から卒業までの教育課程、学校生活支援および就職活動支援を完了し、2年制学科においては1年次の教育課程、学校生活支援および2年次開始の準備を完了することを目標とする。

【教育、学生支援】

いずれの学科においても調理・製菓の職業に関する実践性を高めることを目標とし、特に2年制1年次では、2年次の発展的な教科科目につなげるために、当年度から実社会で求められるより高度な調理・製菓技術の習得に努める。教科科目での取り組みは、近時の社会問題解決に対して興味・関心を持つことができる授業内容を展開することとし、学生の学習評価と授業アンケートにより授業の質をはかり、またその向上を計画する。

学生支援では、奨学金の周知・手続きのサポート等をすすめる。就職活動は、専門の職員を充てて活動を支援し、日本人だけでなく、留学生が日本での就職を希望する場合も支援する。

日常の健康管理・学校生活の相談に対応できる体制を整えるほか、隣接する東京学芸大学と連携し、環境教育センターでの農作業体験や留学生に対する日本語能力を高める課外活動を提供する等、学校生活がより充実する施策を展開する。

【学生募集】

オープンキャンパスは、対面による実体験イベントだけでなく、オンラインイベント・オンライン相談会の機会を設ける。また、高等学校への授業協力、日本語教育機関への協力等により本校の教育活動の理解が深まる機会を増やし、入学検討者を広げる活動をすすめる。

【財務】

当年度は開校年度であるため、収入も次年度以降に比べ限定的となるため、支出項目を月次で確認し年間収支バランスを均衡に近づける。

3. 評価項目の達成及び取組状況

1 教育理念・目標	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	4	3	2	1	建学の精神、教育理念、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、学則がある。
学生・保証人に対して教育理念等を明文化し、周知しているか	4	3	2	1	入学要項、学校パンフレット、HPに明示し、在校生へは「学生便覧」にて周知している。
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	3	2	1	実務家教員へのヒアリング、求人等関係企業とのヒアリングも学科内で共有し教育目標・育成人材像策定に活かした。
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	3	2	1	社会のニーズを意識した運営方針・事業計画がある。
学校における職業教育の特色は明確になっているか	4	3	2	1	探求心を育み、料理やお菓子を研鑽し続けるという姿勢を身につけるため、到達目標を設定している。

① 取り組みの内容

学校の理念・目的・育成人材像については、建学の精神・教育理念に基づいたアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを策定し、学校ホームページや入学パンフレット等に示し、オープンキャンパスでは入学検討者およびその保証人等に対して周知に取り組んだ。また、入学前の諸手続き、入学後のガイダンスにおいても周知に努めた。

実務経験のある教員による教科科目では、教員からヒアリングを実施し、カリキュラムおよび科目のブラッシュアップに努めた。

学校法人としての計画に則り、学校として当該年度のアクションプランを策定している。

- ② 課題
特になし
- ③ 今後の改善方策
特になし
- ④ 特記事項
特になし

2 学校運営	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
	4	3	2	1	
教育方針や教育目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	3	2	1	年度方針、経営会議議事録、学校の運営方針がある。
運営方針に沿った事業計画を策定し共有しているか	4	3	2	1	事業計画書、経営会議議事録、理事会議事録がある。
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	3	2	1	職員会議規程、委員会規則、それらの議事録がある。
運営会議(教職員会議・教員会議等)が定期的に開催されているか	4	3	2	1	年間計画、マネージャー月次業務報告 共有体制構築がされており、案件により会議が開催されている。
資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1	専修学校教員要件、養成施設教員要件を証明するための各種証明書がある。
教員数が十分でない場合、採用活動を行っているか、または、教員資格等取得に向けた教育・指導を行っているか	4	3	2	1	教員数は法規に沿った人数だが、引き続き教員拡充に努める。また、育成を含めた若手職員の教育、指導を計画的に行っている。
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1	校内での人権研修、外部セミナー研修に参加している。職員に対する研修の記録がある。
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組みが行われているか	4	3	2	1	授業展開の研修、技術向上の研修会のほか、企業での実地研修の記録がある。
人事に関する制度を整備しているか	4	3	2	1	就業規則、嘱託就業規則、パートタイム職員就業規則、赴任規程、賞罰委員会規程ほか各種規程がある。
給与に関する制度を整備しているか	4	3	2	1	賃金規程、通勤手当支給規程、出張旅費規程、育児手当支給規程ほか各種規程がある。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	3	2	1	学事システム、Microsoft365によるPowerAutomate、就職情報システム、e-ラーニングシステム、勤怠管理システム等が稼働している。

- ① 取り組みの内容

法人本部は経営方針・事業計画を策定し、本校は学校運営計画のほか、学科、部署の年度計画を策定した。
情報共有の体制は、職員会議および各種委員会を定期的に開催し、各学科・部署は報告書を提出した。

教員については、専修学校教員要件および養成施設教員要件を証明するための書類を備えている。
さらに専門性を高めるため学外の研修等に取り組んだ。学校内においても、研修用コンテンツ(Find!アクティブラーナー(<https://school-fal.com/>))等を活用し、学生対応、指導方法の改善に努めた。

情報システム化については学事システム、Microsoft365によるPowerAutomate、就職情報システム、e-ラーニングシステムほか、受付アプリ、奨学金管理アプリなど業務効率のためのシステムを導入している。

② 課題

奨学生管理アプリ「ガクシー」と既存の学事システムとの連携が課題である。

③ 今後の改善方策

限られたリソースを有効活用するために業務の合理化を図る。情報システム化による業務の効率化、教職員の能力開発を含め、人員の適正配置を検討する。

校内で行う技術研修、教員の資質を高める研修については、年度単位で内容、対象者、実施時期を計画し、実施する。外部セミナーや研修会は随時、参加の可否を検討することになるが、例年の開催実績などを参考に計画、推奨する。そのための予算を確保する。

奨学生管理アプリ「ガクシー」を最大限活用し、業務の効率化を図る。既存の学事システムとの連携運用を効率的に進める。

④ 特記事項

【職員の能力開発のための研修実績】

人権研修(ハラスメント、いじめ問題、留学生対応)を実施した。

東京都私学財団、東京都専門学校各種学校連合協会等で定期的に開催される研修会を学内告知し参加を促した。

【関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組み】

・調理科学に関する研修(味の素株式会社 川崎氏を迎へ、校内にて教員の研究内容の発表を合わせて実施)

・企業での実地研修(アニヴェルセル株式会社)

【教員が参加した学外コンクール 及び 受賞】

クラブ・ドゥ・ラ・ガレット・デ・ロワ主催の第22回ガレット・デ・ロワ コンテストにおいて教員が優勝した。

【情報システム化等による業務の効率化について】

事務職員の業務効率化のため「受付システム RECEPTIONIST」を導入し対応業務軽減を図った。

3 教育活動	4: 適切 3: おおむね適切 2: やや不適切 1: 不適切				エビデンス
教育目的および育成人材像に基づき教育課程の編成・実施方針(カリキュラムポリシー)を明示し、また学校構成員(教職員および学生等)に周知し、社会に公表されているか。また定期的に検証を行っているか	4	3	2	1	カリキュラムポリシー、HP、学校パンフレット、学生便覧がある。
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1	学校パンフレット、学生便覧、年度の授業計画、時間割表がある。
教育理念・到達目標に沿って学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1	学校パンフレット、学生便覧、年度の授業計画、時間割表がある。
適切な評価体制を有し、授業評価が実施されているか	4	3	2	1	学生による授業評価アンケートの実施、集計結果がある。
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1	実務家教員による授業を実施して、教育方法の改善に関して聞き取りをした。
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられ、その内容、評価法などが事前に決められているか	4	3	2	1	調理系科目【総合調理実習】【応用総合調理実習】、製菓系科目【専門製菓演習】【応用製菓演習】の授業計画書、企業への依頼文書、評価方法などの資料がある。
職業実践専門課程においては専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、演習・実習等を行っているか	4	3	2	1	制度上完成年度後に認定の申請をする職業実践専門課程の対象学科については、当年度は、企業等と連携して授業を実施した。また教育のあり方を審議する教育課程編成委員会の準備を進めた。

成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4 3 2 1	学業成績評価及び卒業・進級認定に関する規程がある。
職業実践専門課程において専攻分野に係る関連分野の企業・団体等と連携し、学生の学修成果の評価を行っているか	4 3 2 1	制度上完成年度後に認定の申請をする職業実践専門課程の対象学科については、当年は、企業等と連携し、実務家教員により学習成果を評価し、その評価を学生にフィードバックした。
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4 3 2 1	年度計画、資格取得の説明、勉強会などのサポートがある。科目・授業時間数一覧(学生便覧、HP)、学則がある。
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか	4 3 2 1	高校への授業協力及びガイダンスでの取り組み実績がある。(職業講話、プロフェッショナルズ授業)

① 取り組みの内容

育成人材像・到達目標・カリキュラムについては、学科会、教育研究推進会議で審議した。

学習時間については専修学校および養成施設に定める規定時間数以上を確保しており、学則・学則施行細則・学生便覧で明らかにして目標の達成につながるカリキュラムを編成している。免許取得のための規定科目の学修を第1学年に集約し、その基礎を踏まえて第2学年で専門技術を獲得する位置づけとしている。成績評価、卒業進級判定は、学則・学則施行細則・学生便覧で明らかにし、年度末には卒業進級判定会議を開き当該判定を実施した。

【職業実践専門課程について】

職業実践専門課程認定制度では完成年度後に認定の申請をすることになるが、対象学科となる2年制学科では、当年度において調理・製菓の業界・職業において実践的な技術等を習得するカリキュラムを展開した。具体的には、実務経験教員による科目を配置し、調理・製菓の技術だけでなく、実社会で必要となる知識・考え方・対人関係スキル・現場で起きる問題への対応能力を体系的に習得するものとし、学生の理解度やレポート等平常の取り組みを含めた評価を行った。また、学生の取り組み・成績評価について本校と連携する企業とともにカリキュラムのあり方について討議した。

② 課題

2025年度には「学校関係者評価委員会」「教育課程編成委員会」を実施し、委員より学校運営、教育に対する意見等をいただき、より良い運営を行う。

実務経験のある教員による授業を行った実績をふまえ、さらにキャリア教育・実践的な職業教育として充実した内容となるように教員の確保とカリキュラム、教育方法の工夫・開発が必要である。

③ 今後の改善方策

教育課程編成委員会での審議内容や意見を受けて、よりよいカリキュラムを検討する。

④ 特記事項

特になし

4 学修成果・教育成果	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
就職率の向上が図られているか	4 3 2 1				1年制学科は担当職員(担任、キャリア支援担当)が連携して初年度の就職活動を実施した。
資格取得率の向上が図られているか	4 3 2 1				資格取得にむけ学生への情報案内・支援を実施。製菓衛生師については模擬試験を学内で実施した。
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 2 1				著しい活躍・評価をうけた在校生については、情報が共有されている。

① 取り組みの内容

本校が企画する就職に関するセミナー、企業説明会を定期的に実施した。卒業時の目標就職率を100%とし、学生の希望する就職先から内定を得るように進めた。当年度は目標を達成した。

② 課題

調理技術技能考査の受験を推奨し、年間計画を立て取得率向上の支援をすすめた。技術考査の合格率は100%であったが、受験率がのびなかつたため、今後の課題として取り組む必要がある。

在校生が社会的評価を得られる場が多くはないので、今後の課題として取り組む。

③ 今後の改善方策

業界団体の主催するコンクールなどにおいて、在校生の参加を支援する。また、卒業生の受賞情報を集約する仕組みを整える。

資格の取得については、調理技術技能考査、サービス技能検定3級の取得を推奨しており、年間計画を立て取得率向上の支援をすすめる。

④ 特記事項

【学生が参加した学外コンクール】

- ①第22回ガレット・デ・ロワ コンテスト エスポワール部門 優勝・第2位
- ②第2回全日本学生マカロンコンクール 農林水産省 ありが糖運動 特別賞
- ③第31回豆！豆！料理コンテスト(東京新聞社) 豆スイーツ部門 優秀賞

5 学生支援	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	3	2	1	進路・就職に関する各種イベント案内、相談受付の案内の資料がある。就職セミナーを開催するほか、履歴書添削、面接対策などの支援を行っている。
学生相談に関する体制は整備されているか	4	3	2	1	学生便覧、人権啓発委員会のパンフレット等、案内の資料がある。相談窓口、保健師、カウンセラーを配置しており、スクールカウンセリング(心の相談)体制がある。
学生の面談・相談記録があるか	4	3	2	1	学事システムに記録がある。保健室、カウンセラーの相談、人権啓発委員会の相談等については別途記録がある。
奨学金制度など、学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1	入学要項、学校パンフレット、入学後のJASSO説明会の資料がある。
学生の健康管理を担う組織体制はあるか(学生の健康診断を実施しているか、また健康相談窓口は整備されているか)	4	3	2	1	健康診断記録がある。保健師と学校医の連携がある。
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	2	1	課外活動の案内の資料、活動記録がある。
学生の生活環境への支援は行われているか	4	3	2	1	学校パンフレット、学生便覧、HPがある。学生共済への加入記録、共済組合への支払請求の記録、居住については紹介企業への引き継ぎ記録がある。
退学率の低減が図られているか	4	3	2	1	面談の実施ラインの取り決め、担任会議事録、職員会議議事録がある。
保証人と適切に連携しているか	4	3	2	1	出席状況を含め必要に応じて担任より連絡をしている。学事システムに記録がある。
卒業生への支援体制を整備しているか	4	3	2	1	再就職、独立開業を考えている卒業生への相談体制がある。同窓会組織を通じた業界情報・各種セミナーの案内物がある。
社会人学生のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	3	2	1	担任やキャリア支援担当職員が、個別のニーズを聞き取った上で対応している。

① 取り組みの内容

進路・就職に関する支援体制は、キャリア支援担当職員が、クラス担任と連携して学生を支援する体制を整えている。また、進路・就職活動以外の学生からの学校生活に対する相談に対しては、学生相談室にカウンセラーを配置するほか、担任、学科長、学務が連携する体制を整えている。

健康管理については、保健室に保健師が常駐しており、担任、学科長、学務と連携している。本校では、一人暮らしの学生も多いことから、体調不良や長期欠席の学生が発生した場合など、担任を中心に学科長、学務と連絡をとり、状況に応じたケアを行った。体調不良や長期欠席、出席率の低下が著しい学生については特に保証人との連携に努めた。

学生の経済的な支援について、日本学生支援機構、高等教育の修学支援新制度奨学金のサポートのほか、学校独自の学費支援奨学金制度、留学生奨学金制度、卒業生子女兄弟姉妹学費減免制度の周知に努め、適切に運用した。

課外活動については、東京学芸大学と連携した「くいしんぼうラボ」の活動や、コンテストに出場する学生については、技術面のサポートを実施した。

退学率の低減については、体調不良や長期欠席、出席率の低下が著しい学生は退学につながることが多いため、状況に応じて担任、学科長(副学科長)との複数回の面談を実施し、保証人との連携に努めた。

② 課題

退学を未然に防ぐ取り組みを行ったが、学校生活にうまく適応できない学生や精神的に不安定な学生もあり、結果的に退学につながるケースがあった。

社会人学生のニーズは個別対応での聞き取りに留まっている。

③ 今後の改善方策

授業やクラスなど学校生活にうまく適応できない学生は、それをきっかけに欠席が増える傾向がある。まずは小さなきっかけを見逃さないようにホームルームや授業中のグループワークなどをを利用して見守りの強化をはかる。状況に応じて、本人への声掛けや保健師やカウンセラーへの誘導、迅速な保証人への報告等をはかるよう努める。

社会人学生に対して、アンケート等でニーズを調査し、教育環境の整備に努める。

④ 特記事項

特になし

6 教育環境	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	3	2	1	専修学校、養成施設として設備備品一覧、教室設計図、配置図、図書リスト等がある。
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	3	2	1	学内実習室については設備一覧・図面・教員配置表がある。学外は複数企業で研修できる体制がある。
防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4	3	2	1	危機管理マニュアルがある。防災計画、実施記録がある。

① 取り組みの内容

校内の全教室にて学生が同時接続可能なWi-Fi環境を整えている。ハード面のうち、実習室については在学中から実際の現場での動きをイメージできるように西洋料理、日本料理、洋菓子等学習内容に特化した設備・機器を提供している。また調理、製菓理論用の普通教室についても学習内容に特化した設備・機器を備えている。ソフト面のうち、東京学芸大学と連携した「くいしんぼうラボ」活動、国内(国外)研修については年度当初より計画し問題なく実施できた。

防災活動については、年度始めより防災訓練を計画、実施し、所轄消防署に報告書を提出した。

② 課題

就職活動としてのインターンシップは行ったが、職業教育としてのインターンシップは実施していないため、必要性を含め検討することが必要である。

③ 今後の改善方策

中長期的にカリキュラムの改善を検討し、適宜教育体制の整備を進める。

④ 特記事項

特になし

7 学生の受入れ募集	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1	オープンキャンパスの資料、高等学校訪問の資料、オープンキャンパスアンケート、入学要項、学校パンフレット、HP、各種契約書、入学希望者数管理表、入学選考委員会議事録等がある。
学校説明会等による情報提供(育成人材像、評価手段及びその基準、目指す資格・検定・コンペ、学費・教材費等の情報)を行っているか	4	3	2	1	オープンキャンパスでの説明資料、高等学校訪問での説明資料、アドミッションポリシー、入学要項、学校パンフレット、HPがある。
学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1	学納金で健全な運営ができるように妥当な設定になっている。

① 取り組みの内容

国・東京都・関係団体の通知および遵守事項に従って学生募集活動を行い、入学選考委員会を設置し、公正に選考を行っている。資格取得や就職実績、各種コンクール入賞等の教育成果について、ホームページやSNSで情報を開示し、資料請求者には教育成果を記載したパンフレット等を適時送付して伝えた。

学納金の内訳は入学金、教育充実金、授業料、実習費となっており、それら学納金で健全な運営ができるように妥当な設定になっている。さらに入学者の学費負担を軽減できるよう、本校独自の様々な奨学金制度を用意し、支援体制を整えている。

② 課題

特になし

③ 今後の改善方策

特になし

④ 特記事項

特になし

8 教育の内部質保証システム	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	3	2	1	2024年度開校にあたり設置基準を遵守し申請許可を受け、教員変更等履歴がある。学校日誌はデータで日々記録されている。
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	3	2	1	校務分掌表、各種委員会規程(コンプライアンス、情報管理、人権啓発、入学選考、食品安全衛生、教育研究推進等)がある。
学校が保有する個人情報の保護に関する対策を実施しているか	4	3	2	1	情報管理規程、個人情報保護規程、システム事業者との業務提携契約書等がある。情報管理委員会の議事録もある。
学校教育、学校運営について、自己点検・評価を実施し、さらに課題解決に取り組んでいるか	4	3	2	1	自己点検・評価報告書がある。
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	2	1	当年度開校のため、効果を把握するため準備している。
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	3	2	1	GPA規程、卒業進級規程、シラバス、高等教育修学支援機関要件確認申請書がある。(HPに掲載している。)
自己評価結果を公開しているか	4	3	2	1	公開している。

① 取り組みの内容

法令遵守は学校運営の根幹であるとの認識に立ち、体制を整えている。個人情報を保護し適切に管理するためプライバシー・ポリシーを策定し公表しているほか、学事システムは必要なセキュリティを講じクラウドで管理している。また、会議体としては、職員会議、情報管理委員会、人権啓発委員会、食品安全衛生委員会、コンプライアンス委員会等を設置し、定期的に事案を報告し対策を講じた。

② 課題

早期にキャリア形成の効果を把握できる体制をつくることが課題である。

③ 今後の改善方策

就職実績企業や卒業生に対して、キャリア形成への教育効果に関するアンケートを実施して教育活動の改善に活用する。

④ 特記事項

教育活動に関する情報公開については、学校生活をより具体的かつ即時性をもって伝えられるよう、学校ブログを充実させている。
https://www.tsuji.ac.jp/college/chorishi_tokyo/blog/

9 財務	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財政的基盤を確立しているか	4	3	2	1	財産目録、貸借対照表、資金収支計算書、事業活動収支計算書、監査報告書、事業報告書
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1	予算書、補正予算書、理事会議事録、評議員会議事録
私立学校法及び寄付行為に基づき適切に監査を実施し、理事会、評議員会に報告しているか	4	3	2	1	会計監査報告書、理事会議事録、評議員会議事録
財務情報公開の体制を整備し、適切に公開しているか	4	3	2	1	学校法人HP https://www.tsuji-gakkan.jp/information/

① 取り組みの内容

法人本部において毎年度財務分析を行い、計画を策定している。年度毎の事業計画においては、資金収支予算・事業活動収支予算を編成し、その後の補正も含め、理事会・評議員会等での必要な手続きを経て承認を得ている。
私立学校法に基づき、監事による会計監査を実施し、前年度会計については2024年5月の理事会、評議員会に監査報告書が提出された。また2024年6月にHPにて財務情報等を公開した。

② 課題

財務については、法人本部において予算・収支計画を取りまとめ、本部及び設置校にて執行管理を行い、監査ならびに情報公開まで適切に行われているが、経常収入の90%以上を学費収入に依存する中で、財務基盤の安定を維持するためには、入学者の安定的な確保と退学者の抑止に継続的に取り組む必要がある。

より良い教育環境を構築し、教育施設の維持・更新を適時実施するためには、収支均衡を大前提とした上で適切な予算の確保が必要である。

③ 今後の改善方策

人件費、教育研究経費、管理経費を継続的に精査し、業務の合理化・効率化、継続的な入学者確保に取り組む。

退学の抑制は財務基盤の安定にも重要であり対策の強化に努める。

校舎施設については、改修の必要性に応じて適正な予算配分に努める。

④ 特記事項

なし

10 社会貢献・地域貢献	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1	年間行事予定表、活動記録、施設貸出記録がある。
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1	実施記録がある。

学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	3	2	1	調理コンテストへの協力実績がある。
---------------------------------	---	---	---	---	-------------------

① 取り組みの内容

年間を通じて各種団体からの依頼があり、施設を提供するなどの形で社会貢献に努めている。
業界団体の講習会への施設提供、講師派遣、子供食堂へのケーキ提供協力などを行なった。

② 課題

学生がボランティア活動に参加する意義を理解し、具体的に参加可能な活動の案内をする機会が少ない。

③ 今後の改善方策

学生のボランティア活動を奨励するため、外部団体との協力や、それを支援する体制を整える。

④ 特記事項

子供食堂へのケーキ提供協力は当年度は職員が担当したが、次年度は製菓応用技術マネジメント学科の学生が担当予定である。

小金井市立前原小学校文化祭への協力

小金井市給食第三者評価委員会への協力

小金井市公民館緑分館料理教室への協力

調理コンテスト(RED U-35)決勝の実技審査に調理応用技術マネジメント学科学生が助手として参加した。

11 国際交流	4:適切 3:おおむね適切 2:やや不適切 1:不適切				エビデンス
留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	3	2	1	留学生に対する募集会議の議事録、就職に関する会議の議事録がある。
留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4	3	2	1	入学選考試験の結果、記録、入学後の出席簿、成績表がある。留学ビザの更新指導、在留カード紛失等に対する指導の記録がある。
留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	4	3	2	1	留学生の指導を担当する専任の職員を配置し、その対応記録がある。
学習成果が国内外で評価される取り組みを行っているか	4	3	2	1	Instagram、学校HP(ブログ)や多言語でのHP(グループサイト)、中国SNSでの発信を行っている。

① 取り組みの内容

留学生の受け入れについては、文部科学省および出入国在留管理庁の通知等を厳守した出願資格を設定し、入学選考試験を実施している。留学生向けの入学要項、HPを多言語で作成し、それぞれの言語でアドミッションポリシー・入学方法・学費・奨学金などの情報を提供している。また、韓国・台湾・香港などでは、主要都市での進学説明会や、入学実績のある高校・大学・日本語学校での学校説明会を実施している。日本国内においては、留学生向け進学説明会に参画、日本語学校へ定期的にコンタクトをとり、学校や在校生の情報を提供している。

留学生の学校生活については、留学生用HPを作成し、学習及び生活全般に必要な情報を提供している。

学習面では語学力不足による学習の遅れが生じないように、学内で日本語の特別授業を開講したり、留学生コミュニティの形成を促進するために、交流会を実施する等、多角的なサポートを行った。

生活面では、留学生の指導を担当する専任スタッフを配置し、担任と連携し必要に応じて面談を実施するとともに、母国の保護者とも適宜情報共有を行うなど、学修に励む環境を整えた。

本校は農林水産省が定めている「海外における日本料理の調理技能認定制度」の『日本料理技能認定団体』として認定をうけており、日本料理に関する知識及び技術のカリキュラムを修めた留学生のうち希望者はシルバー認定を受けることが出来る。

② 課題

特になし

③ 今後の改善方策

特になし

④ 特記事項

特になし

以上